



日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820
 HP: <http://nagoya-shinsei.church/>

今年は桜も早かったですが、保育園の藤の花も、街路樹のツツジもあつという間に見ごろを迎えてしまいました。イースターが早い年(3月末や4月初めのとき)は桜の開花も早いという説もあります。新型コロナの時代にあっても、季節の移り変わりに自然の雄大さを感じますね。

今月の礼拝 単元12: 荒野の旅(出エジプト)

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00 ~ 9:30	分級 I (小1~小4) 分級 II (小5~中高生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小4) 10:00 ~ 10:20
5月2日	モーセの逃亡と召命	出エジプト 3:11-4:31	武岡 基	I II 合同 母の日プレゼントづくり (安達いづみ・武岡路実)	武岡路実
5月9日 母の日	エジプト脱出	出エジプト 11:1-12:42	武岡路実	I II 合同 母の日プレゼントづくり (安達いづみ・武岡路実)	安達いづみ
5月16日	葦の海を渡る	出エジプト 13:17-14:31	武岡 基	プレイ・タイム	武岡 基
5月23日 ペンテコステ	食物と水	出エジプト 16:1-17:7	安達正樹牧師	I II 合同 聖霊って何だろう? (武岡 基)	安達正樹牧師
5月30日	十戒	出エジプト 19:1-20:17	林 小夜子	プレイ・タイム	安達正樹牧師

「母の日」教会から始まりました

アメリカ・ウエストバージニア州の小さな町ウェバスターのメソジスト教会に、ジャービス夫人という教会学校の教師がいました。ある日曜日、彼女は「十戒」の中から、両親を敬うべきことを教え、最後にこう語りました。「みなさんの中から、お母さんの愛に心から感謝する方法を教えてください。私は望みます。」その後、1905年にジャービス夫人は亡くなり、その2年後の1907年に追悼集会が開かれました。娘のアンナ・ジャービスは、母の言葉を思い出し、この追悼集会にたくさんのカーネーションを飾って、亡き母を偲び、感謝を表しました。これが人々に大きな感動を与え、いつしか、この習慣は人々の間に広まりました。1914年、アメリカ議会は5月の第2日曜日を「母の日」として定めました。

みなさんもジャービス夫人の言葉「両親を敬うこと」の大切さを思い、「両親からの愛に感謝する方法」を考えてみましょう。

ペンテコステ (聖霊降臨日) 5月23日

「ペンテコステ」とは「50」という意味です。イースターはイエスさまが復活された日。このイースターから40日目の木曜日が「昇天日」、イエスさまが天に昇られた日です。イースターから50日目の聖日が「ペンテコステ」、イエスさまが天に昇られた後、神さまからの聖霊が私たちに降された日です。この「ペンテコステ」の翌週の日曜日が「三位一体主日」で、「父」である神さま・「子」であるイエスさま・神さまからの「聖霊」、この3つが一体のものであると確信された日です。いずれもイエスさまの十字架から続いている暦です。



今月の聖句 (2021年度教会聖句)

**思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。
 神が、あなたがたのことを心に掛けてくださるからです。** (ペトロ I 5:7)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 96 (せいいいよ、きてください)

今月の礼拝では旧約聖書からモーセの物語を学びます。モーセは神さまへの深い信仰を持ち、神さまに守られ、神さまから力を受けていました。目には見えないこの神さまからの働きかけが聖霊です。私たちも神さまに守られ、目に見えない神さまからの働きかけが与えられています。つまり聖霊は私たちにも注がれているのです。今月のさんびか 96「せいいいよ、きてください」は、聖霊を求める生き生きとした力強い賛美歌です。1節では「燃え上がる炎が闇を照らして世界をつくりなおす」、2節では「吹き込む激しい風を受け止める時、そこが教会になる」、3節では「互いに愛し合う時にわたしたちは一つの言語を語る」というメッセージが歌われ、最後の「人々をむすぶ」という言葉が全体を貫いています。

作詞はドイツのイエズス会の司祭クラウス・オコネックさん(1937-)と修道士ヨー・ライレさん(1952-、本名ハンス・ヨアヒム・ライレ)です。1971年、カトリック教会の青年キャンプのペンテコステ礼拝がテレビ放送されることになり、「激しい風」「炎」「多言語の奇跡」の3つの象徴を備えた賛美歌が必要となり、青年担当だったオコネックさんとライレさんが歌詞を書きました。旋律はよく知られたイスラエル民謡(ユダヤの旋律)で、ドイツでは詩編95編の旋律としても歌われています。この賛美歌は1973年に初めて賛美歌集に収録され、近年になって多くのプロテスタントやカトリックの賛美歌集にも収録されるようになりました。

作詞者のオコネックさんはギムナジウム(日本での中学から高校までの一貫した教育機関に相当)を卒業後イエズス会に入って司祭となり、その間に青年の信仰教育を担当しました。1974年に修道会を出てベルリン自由大学で心理学を学び、1986年からはベルリンの精神障がい者の施設でカウンセラーとして働きました。今もベルリン大聖堂で心理学者として信徒の相談を受けているとのこと。ヨー・ライレさんはドイツ中央部のフルダに生まれました。この町は古く8世紀ごろから修道院を中心として栄えてきた集落です。日本のお寺で考えれば門前町といったところでしょうか。ライレさんは5年間イエズス会に所属した後、大学でドイツ語と音楽を学んで教会音楽家となりました。ベルリン、マドリッドのドイツ語学校、ボン近郊のバート・ホネッフで学校の教師として勤められました。

この賛美歌はペンテコステの礼拝ではもちろん、礼拝の最後に派遣の賛美として、また賛美歌が作られた経緯を考えるとキャンプでの礼拝にもふさわしいといえます。激しい炎や嵐をイメージし、神さまからの聖霊を感じて歌えるとよいでしょう。



がたんじょうびおめでとう🎂

5月生まれのお友だち